

昭和17年6月1日（月）

雲は魚鱗に似て断雲あり。深き処、層を為し居るが、宮島町四辻にて人の挨拶を聞くに「立派な天気になって来ました」「天気が続く様子だ」とあり。風は凪ぎ居るらし。窓口繁忙、加勢の為、切手受取りにも行く機会なき位なりし。午後より、多少天候は晴れ気味となる。坊や元気回復の兆しあり。

昭和17年6月2日（火）

曇りがち。此日、伊勢さん出勤の筈なるも見えず。森田さんの話しには、一週間位休むらしいと。併し当方には然らず。宮前さん病氣。坊ちゃん来たり、医者を探す。裏の清松医を推薦す。体温計貸してやる。37度にならぬ微熱なるも、顔を真っ赤にして苦悶の状貌あり。4時過ぎ伊勢さん来局。其の俣出務す。森田さん宮前さんかかり行き助勢す。伊勢さん友人数名来局。退局を俟つものの如し。6時半飯る。横田の政恵さん来る。葉書なく切手ばかり故、ミワさんに請求に中津局まで往きて貰ふ。此の間切手請求あり。5銭分なし。乃ち請求人を待たせて、切手類を受取り来る。ミワさんと途中で遇ふ予測は破れ、庶務より受取り来る。

昭和17年6月3日（水）

曇り。午後4時頃より雨を催し来る。夜に至り、本降りとなる。此日4銭及び2銭切手は請求せざりしに、朝の間に4銭百枚不足するに至り、11時追加請求す。序でに、曩の請求分の請取りに行く。市会議員の選挙に推薦議員の理想は破れ、遂に投票することとなる。其の為、競争は激甚とならざるを得なくなり、切手類の需用も其れ等

に影響、増大せしものと思料さる。坊や寝相悪く風邪の
気味、痰多く出る。

昭和17年6月4日（木）

午前中、猶雨。午後より歇みたるも、曇天の俣にて、坊
やの汚れ物一向乾かず。母堂、夜に至り火にて乾かし下
さる。ミワさん新しく出た大蒜を求め下さる。味噌を夕方
作る。坊やの御飯も蒔蓰草（ほうれんそう）手に入れ、
煎り子を加え造る。切手類の請求なし。此の夜、夏蜜柑
3ヶ求め来らる。坊や欲求す。乃ち潰して漉して半分遣る。
耶馬溪局長来る。

昭和17年6月5日（金）

昨夜の蜜柑汁が害を及ぼし、4時頃下痢便を催し、憔悴
の姿となる。清松医かかり行くばかりになりて、模様を見
るに、診て貰ふ程でもなさそう故、中止したり。夕食時に
御飯を遣り、それまで牛乳及び代用乳にて、一切他の菓
子類を与えず。ミワさん此朝、野菜市場行き林檎を求む。
幸いに手に入れ来らる。1ヶ10銭づつ、2ヶ持来らる。内
1ヶを正午にやる。之を2回に与ふ。便は悪いが元氣は格
別違わぬ風故、異状なきものの如し。此日市議選挙。
午後3時頃に公会堂に投票に行く。昨、耶馬溪局長、岩
田大作氏の為に、運動に来たりしものの推薦組の外に、
自由組一名立ち、理想選挙破れたるらし。快晴。明日午
後、當籤（とうせん）判明するらし。

昭和17年6月6日（土）

初めの間晴れ。次第に曇り、4時頃より雨。夜に至り可
なり大降りとなる。切手請求。齒科かかり行く。角野先

生の外、他に一名の先生あり。患者多きも進行早く、抜去のことに話さる。此日当籤判明。清松医5番目に当籤。祝賀の挨拶に行く人多しとあり。夕刊に発表されず。此の朝、市場に林檎を求めに9時頃行かれ、4ヶ50銭にて求め来らる。明日より品なき由。昨夜うどん造らる。森田伊勢、両氏にやる。此朝まで残りを食す。坊や10時頃まで起きて居る。

昭和17年6月7日（日）

朝来降雨。多少寒くなる。午前中、角野先生かかり行く。抜かずに治療を加えて見るかと仰言る。1時間半待つ。久子赤坊会に優良褒状を得て、余に通知すべく、ミワさんと角野先生宅に来る。昼飯食わずに販る。坊や湯に行く。販って林檎を拵えて汁をやる。久子パン数ヶ持参。夜の飯時2ヶ頂く。歯患部、鈍痛を感ず。

昭和17年6月8日（月）

雨上がりとして道路、猶乾燥せず。軒下程度に止む。晴天。此日請求せず。医師行きなし。頃日、飯時に必ず菓子を強請す。大便三四回、概ね食事時に失敬す。差出すも出ぬとて垂れず。歩行器に乗りてやる。其の都度、食事を余す外に、大騒ぎを演ず。襪襦決して当てしめず。襪襦を洗うことなき代わり、着物を洗うことのみ繁し。夕方坊や寝らず。神様に連れて行くこととさる。御広前にて、誰彼の差別なく信者の前に立ちはだかり、愛嬌すと。大東亜戦争詔書奉載日。

昭和17年6月9日（火）

朝7時近くまで坊や寝て居る。一度泣き声したるも再び音

なし。掃除せしと座敷に至るに、坊や半ば起きて居る如し。抱き上げる際、ウンコ手一杯掴む。驚きてミワさんと呼び、坊やを持去らしめ、布団、寝巻、敷布団まで汚す興を持来り、夫れ等を洗濯す。曇天。乾くか否か不判明の俣乾かす。後漸く晴れ、全部乾く。夕飯時パン2ヶ、餡餅4ヶ頂く。蒔草市場になし。フダン草を代用す。芯多くして適当せず。馬鈴薯と人参を加ふ。

昭和17年6月10日（水）

晴れ。切手請求、9時中津局行き。髭剃りす。今日部会、耶馬溪倶楽部に於いて開催せらる。会費5円持参。夫れでは不足と認め、途中より引返し更に10円追加。而して剩り6円に過ぎず。柿坂部長を辞退に付き、後任者を推薦す。結局、耶馬溪が引受くることなるべし。金田氏の注射器持参、1日10回から注射する由。痛ましくて、注射の際は見て居れぬ。自分で注射し、柿坂が手伝ってやる。昼飯を済まして、閉会会場内にて国民儀礼を行う。2時前飯り、切手請取りに行く。

昭和17年6月11日（木）

少々（しょうしょう）曇り。毛布を乾かす。張り板をおろし、母堂余に浴衣を張らる。二三日切手請求せぬ程、充分請求す。坊や林檎今日で無し。蒔草、品なく、フダン草代用。4時角野医かかり行く。待つことなく済む。坊の飯を作る。

昭和17年6月12日（金）

特定局長会、別府公会堂に於いて開会。午前6時50分までに朝食を済ます。切符、前夜求め置く1, 45。午前7時

20分出発。出発前、カラー70求めて貰ふ。曇り。10時前会場着。日田、佐伯、大分、別府各局長も見え、佐伯は岸田儀作氏、昼食の際、廊下に偶然會逅。昼食は汽車弁配付。諮問案なく協議案のみ提出ありて、一日にて終了予定なりしを、南北連合して二日の会期とせり。5時20分閉会。大急ぎにて停車場に駆け付く。猶10余分を剩す。此の夜半、坊や嘔吐し下痢し布団を汚す。駅に迎えられたる際、坊や喜ぶこと限りなし。

昭和17年6月13日（土）

朝来降雨。和傘持来。会場に着後、一時雨歇む。議事全部を議了し、役員改選の為、昼食後も引き続き開会の筈。余3時の汽車にて販る。坊や迎えに来たり居る。清松医かかり行き。例に依り、ひまし油注射と二日分の薬を貰ひ来らる。5時まで絶食。余4時より角野医かかり行き、5時半販る。下剤を（イチジク浣腸）して牛乳を遣る。

昭和17年6月14日（日）

終日降雨。坊、朝牛乳と粥少量。夜は卵の黄身を、粥少量と与ふ。調査票作成を了す。伊勢さん昨夜活動かかり行き、森田さんに泊まる。夜、坊連れ湯に行かる。夕方より幾分冷ゆ。

昭和17年6月15日（月）

豪雨歇まず。各地出水の報あり。調査票各自認印せしめ、異議なき処で発送す。後曇り。切手類買受け見合わす。税務署より徴税令書来る。所得980円と指定さる。夏蜜柑1ヶ10余銭、数个求め来らる。市販腐敗多く、余の食する分にも腐敗に近きものあり。坊の為に落雁を求め来

らる。夕食に馬鈴薯、人参、煎り子等にて坊やの為に造り呉る。寢床、蚤頗る多し。栄町長来局。局所票一枚貸しやる。角野医かかり行く。

昭和17年6月16日（火）

晴天。寢衣、上敷等、陽に乾す。切手請求せず。夏蜜柑頂く。一ヶ腐敗し居る。頃日、坊や夜8時頃より教会かかり行き、9時半頃戻り、大方睡りつつ来る。朝も夕も餉時（しょうじ）母堂坊やを守りし、我等先に食事を済まして交代す。勿体なき限り。昨日来、便所に蚊遣り香を焼く。坊や寢相悪く、風邪の模様。

昭和17年6月17日（水）

朝来降雨。切手類多数請求。午前11時半受取りに行く。保管室にて受取る積もり。錠前に鍵を忘れたとかにて、長い竿にて窓からつつき居る処に行く。奥家さん、自分のポケットに蔵へ忘れてあること判明。頃日、雨脚遠ざかる。局に着きて次第に大降りとなり、又小降りに変ず。夕方より歇む。角野医かかり行く。10余名待居る。寝る前水浴す。坊や多少発熱あるらしく、機嫌悪く、誰彼の差別なく抱かれる儘、其の人に縋るも一分間と居らず。ミワさんの許に抱かるるを欲す。夕食調製。弁当屋より坊や出生祝賀の意味で、各自2円余送付に対し、今檉葉シンコ15ヶ貰ひ、余5つ頂き、2ヶ森田さんに遣る。坊や早く寝る。9時過ぎ再び降雨。田中エツさんより、生長の家雅（みやび）贈らる。

昭和17年6月18日（木）

朝、一時雨歇む。此の儘晴天を想像されしも、束の間。

9時前後より再び降り出し、終日降り続く。此の間、小歇みになりし時はありし。明日別府講習会は、全く来月の誤りにて、ミワさんにも迷惑かけて申訳なし。此の日、窓口切手検査。依然6円不足に対し、余補填し遣る。昨余の歯科医かかり不在。窓口現金、余の机上に置きありし際、公衆の両替請求に、ミワさん切手現金より取出し、出入りせし為の行違ひらしく、5円の欠損となりしもの（窓口6円不足、函場1円剩り）。4時前後より曇り。1時間ミワさん坊やを守りし、駅に過ごさる。坊やの夕食煎り子なくなり、人参馬鈴薯だけ。7度4分風邪は寝冷えらし。

昭和17年6月19日（金）

朝来降雨。請求なし。午後1時頃より坊やを守りす。盛んに活動せしむ。二階に上がる途中より引下す。幾度か繰り返す。ガラ箱に手を入れ、一々ガラを拾い出して棄てる。手が真っ黒になる。洗ふてやる。玄関の上り框を上下す。下駄を上上げる。色々やる。或る程度なすが儘監視に止めるが、斯くして2時を過ぎて寝むらす。4時を過ぎても起きず。此の間に爪を切りやる。克く眠らすべく、克く疲労せしむるに限る。夕食チリメン煎り子を磨り、坊やの食事作る。4時頃より雨歇む。5時過ぎ角野先生かかり行く。6人の女性先客としてあり。工女らし。三十分待つ。9時坊や睡る。母堂も守りして転寝して居らる。

昭和17年6月20日（土）

午前中、多少雨。月曜日請求せざる為、多数請求。午前11時半より出掛けて行く。此の間、僅々三十分に満たざるに、5銭切手請求数名。預り証を遣る。和傘持行きしも必要なかりし。終日降らず。巖米借りに来る。一斗

程持行けり。座敷にて色々話を聞く。道子病気の由。医
かかり行くを欲せずと云ふ。頃日、9時前後行水して寝
む。蜜柑此の日にて千秋楽。耶馬溪に嫁し夫は海軍に召
集。其の間に、七ヶ月にて分娩し乳不足を唧（かこ）つ
花江さん、赤坊を抱きて来る。重量一貫七百匁、頗る肥
満して居る。坊ちゃんとして御自慢らし。気温多少低下の
趣あり。事務室にも蚊遣り香を焚く。

昭和17年6月21日（日）

珍しく雨降らず。朝、中津局配達、特殊受領証認印し、
傍らに局長と筆書きしたるが、氏名を記入せよと云ふ。
余、局長は二人居るに非ず。単に局長と記載せば足ると、
彼の要求に應ぜざりしに、後刻再び来たり。どうしても必
要だから、書いて呉れと持来る。余電報で主事（松本主
任らし）を呼び注意す。継いで此の儘持たせて返す。集
配員、兎や角謂ふも介意せず。此日慰労手当来たり、現
金手当来る。夫れを分配せり。五時より角野医かかり行
く。何れかに出掛くるらしく、患者を断りし後とて誰も居ら
ず。治療を受けつつある先客一人のみ。珍しく早く帰宅。
坊を連れ駅に行く。此日、坊や数回下痢便す。夕方身体
を洗ふて遣る。夕方多少涼し。夜に至るまで遂に降らず。
今日は慰労金分配や帳簿作成の為、一日費やす。

昭和17年6月22日（月）

晴天。連日降雨後の陽光、有難く拝む。敷き毛布、寝
巻、莫産（ござ）等乾かす。切手類の請求見合わす。
此日手当発表す。現金手当は従来より二円程、減額交付。
道子病気の由。今朝も巖来たり。癌でなさ相なりと安神
の手紙、久子に来たり居る由、語る。秀樹連れ上京する

やの通知あり。余に意見を求め来たりし如し。余は二郎の承諾を得ず、押し掛けに連れて行くことは大反対なりと注意したり。午後4時頃より曇り。夜、坊やを連れ駅に遊ぶ。待合室には余り多数の客居らず。坊や大きな声して叫ぶ。じっとして居らず椅子を登り下りす。本町を通過して帰る。ミワさん方湯に行かる。誰も居らぬ部屋にて、坊やを寝かす。

昭和17年6月23日（火）

朝来降雨。次第に激しく盆を覆（くつがえ）すが如し。終日歇まず。夕方近く一時歇む。百億貯金奨励功労者として、角野夏子氏表彰の旨、通牒あり。夏子氏病蓐（びょうじょく）にあり。電話打合せ。ミワさん直接面会に行き、関係文書手交さる。5時夕食後、療治に行き祝詞を述べ来る。此頃、雨幾分小降りになる。

昭和17年6月24日（水）

朝の間、晴雨の程判明せぬ空模様なりしも、次第に晴天となる。四百五十余円の切手請求。代金払込みをなし、午前11時40分、之が受領現品に行く。午後3時40分、夕食。坊や寝入る間にと済ます。向い家の上村氏、船場町の塩湯を貸家三軒付きにて、二千元にて手に入れ、此の日、其の披露会。一班の隣組其の他は、交友知人三十拾余名にて、盛会を予期されミワさん出席。其の為、余坊やを連れ駅に遊ぶ。6時過ぎより夕立となり、次第に豪雨となる。7時近く一時歇む。此の機会に急ぎ販る。坊や8時寐らず。9時半ミワさん、大雨中自動車にて帰宅。此頃漸く独りで睡る。落雷9時過ぎ、ミワさん未だ帰らぬ時、閃光と共に家鳴りして、それと推せらる同時に、電

燈消滅す。爾後（じご）容易に点火せず。11時を過ぎ点火す。此の間少時点滅。永続せず。雨も此頃より全く歇む。道子より此朝、手紙来たり。次いで巖来たり。座敷にて話を聞く。

昭和17年6月25日（木）

午前中晴れ気味。一時快晴となる。区分に電話せしも、自宅に掛ければ工場へ、工場へ掛ければ自宅にと所在不明。此日午前11時より、警察庁舎落成祝賀会。八木氏も出席の筈。此の趣を竹折氏に通す。誰か遣るとのこと。折柄、耶馬溪倶楽部（区長にして成績良好ならざる向き）に、田所氏及び同行の士と行き、其の販りに立寄らる。十時を過ぐ。色々話あり、遂に11時に至る。田所氏は当局に交付の国債全部を、区長に保管せしめよと云ふ。何れ班長会議開催の上、決定のことに取運ぶを妥当と認め、電話にて其の旨、八木氏に通し注意を促す。午後3時頃より曇り、降雨。但し、本降りに至らずして歇む。5時、角野氏かかり行く。患者僅かに一名。角野氏其の人と話をなし、其の間、余週刊朝日を読む。例の表彰式出欠通知、未発送の趣に付き、発送方通告。公文にて逡信局に、出席の旨通知方も取り計らふ。

昭和17年6月26日（金）

天気快晴に至らず。半ば晴れ。但し朝は降雨し、街路の掃除を見合わす。貯金切手の当選番号票来たり。当局売分六七枚、2円の四等割増金に当籤。鶏卵47ヶ、4円80銭にて売りに来る。給料交付。

昭和17年6月27日（土）

晴れ。八木氏班長会議開催に付き、第一工場、第二工場に氏を尋ね、事務所にも行きたるが、市役所に赴きたる由にて不在。自宅に細君を訪ふて事情を懇談す。夕方再び訪ねたるに、湯に入り居ると云ふ。更に6時頃行く。愈々、明28日開会に決せる旨答ふ。仍って其の旨、電話765番を仲介に田所氏に通告す。4時頃、手当金券交付あり。受入手続きを了して、29日発表の筈。此日も切手請求せず。坊やに湯浴びせしむ。

昭和17年6月28日（日）

曇り勝ち。11時頃より陽が射し初む。ミワさん襯衣、ズボン下、運動シャツ等洗濯。余禪を洗ふ。此の朝、為藤班長より班長会を午後7時半より開催の旨、通告あり。午後2時頃、理髪に裏の店に行く。坊も余の前に理髪し貰ふ。午後7時30分より、八木氏宅に至る。誰も来て居らぬ。一度戻り二度目に田所氏と会す。一緒に行く。次第に集まる。一班九班欠席。国債の消化に付き、色々協議す。八木氏博多行き不在。区長代理も、開会理由の国債消化の件にあることを知らず。区長攻撃甚だし。各班共、国債消化に付き異存なし。10時帰る。

昭和17年6月29日（月）

曇り、3時頃より降雨。午後7時より、隣保班会議開催。余出席。松本氏宅二階に上がれば、誰も来て居らぬ。床の間には半紙に「松本健次郎」と記載、掲出しあり。今度生まれし坊やの名前と聞く。道（さすが）に裕福にも、床に飾られたる五月幟武者人形、鎧等の外、等身大の犬も飾られあり。其の数も多く、交際の広きを示す。

上本氏遅れて来たり。欠席あるも大概集まる。国民行事ありて報告を読上げ、七月の行事に付き申合わせを行ふ。9時半帰る。雨歇まず。此日常会に初めて出席して、会議振りは遠に各班長と思はしめたり。

昭和17年6月30日（火）

此日も降雨。昨、区長代理立澤氏を訪ねて、国債消化方に付き懇談を遂げたるが、此日、区長博多より帰り、午後8時より班長会議開催。八木氏の子供が来たり、余に出席を促す。至れば八木氏も列席し居らる。区長に対し快からぬ連中は、区長に対し猛烈に突っかかる。此等の空気を見たる八木氏は、遠に人情の機微に長じ、酒と一品料理を出して御馳走政策に出づ。国債消化に付いても翻意（ほんい）なきに非ず。市民税を基礎として13割とし、債券は6割として割当額を決定さる。11時近く、余は間食せぬ由を述べて帰宅す。此の日にて三回出席の姿となれり。甘酒麴腐敗の為、全然失敗に帰せり。